

(3) 藻類概説

(ア) 埼玉県における藻類調査の現状

藻類は、酸素発生型光合成を行う植物のうち、種子植物、シダ植物および蘇苔植物を除いたものと定義され、紅藻類、褐藻類、緑藻類といった系統的に異質なグループを含んでいる。そのため、単細胞の大きさ数ミクロンのものから多細胞で数十メートルにもなる大型の海藻まで多様な種が含まれる。水中生活を送る種が多いが、湿潤な環境であれば陸域でも見られ、土壌や岩石、樹木の表面、氷雪中、さらには地衣類やサンゴ虫等の体内に共生藻として生育する場合もある。

埼玉県内に生育する藻類は主に淡水性の種からなるが、県内では西部の亜高山帯から東へ向かって山地帯、丘陵地帯、低地帯が連なり、小規模な池沼や湿地、灌漑用の溜池、水田、湧水環境等、藻類にとって多様な生育環境が広がっている。1998年版「埼玉県植物誌」では、藍藻類から肉眼での観察が可能な車軸藻類まで合計1,532種が報告されている（伊藤1998）。その大部分が肉眼での観察が困難な微細な種で占められているが、比較的大型の藻体を形成する紅藻類（オオイシソウ類やカワモズク類）や車軸藻類を中心に、前回の埼玉県レッドデータブック植物編では合計31種が掲載された（埼玉県2011）。しかし、近年ではその半数以上の種の生育が確認できていない状況である。

(イ) 評価対象種の選定と県内の生育状況について

今回の改訂にあたっては、埼玉県レッドデータブック植物編（埼玉県2011）で掲載された種に加え、その後に新規に報告された種および2020～2022年の調査によって記録された種を再検討した。評価のカテゴリーは環境省レッドリスト（2020）に準じているが、藻類は定量的な評価に耐えうる過去のデータが不足しているうえ、県内全域において調査が十分に行われているとは言い難いことから、基本的には定性的要件に基づき評価した。また、今回の改定では絶滅危惧ⅠA類（CR）と絶滅危惧ⅠB類（EN）は区別せず、絶滅危惧Ⅰ類（CE）とした。2011年の改訂後に得られた情報と今回の調査期間に確認された種は、紅藻類10種、トレボキシア藻類のカワノリが1種、車軸藻類が6種で、合計17種であった。今日に至るまで50年以上にわたって県内での確実な記録が無い種が、車軸藻類を中心に多数認められた。藻類分野においては、生育の可能性のある水域が県内に広く存在することから、いまだに再発見できていない種も相当数いるものと思われる。そのため、今回の改訂では、50年以上生育記録の無い種についても野生絶滅とはせず、カテゴリーは絶滅危惧Ⅰ類（CE）のままとした。

紅藻類のオオイシソウは、鶴ヶ島市内の既知の生育地2箇所で継続して確認するとともに、富士見市と本庄市においても新たな生育地を発見した。本庄市の生育地は利根川河川敷内の伏流水が流入する箇所であったが、河川工事の影響により伏流水が枯渇し、生育を確認できなくなった。なお、当該地近くの備前堀川でも生育記録があるが、1995年頃までに消失した（中村1996）。本種に近縁なアツカワオオイシソウとオオイシソウモドキは、過去に行田市内で記録があるが、今回の調査では確認できなかった。遺伝子解析結果に基づき、この2種を含む日本産のオオイシソウ属はすべてオオイシソウに含まれるとする見解もあるが（Carlile and Sherwood 2013, Necchi 2013）、今回の改訂では環境省レッドリスト2020（環境省2020）に倣ってオオイシソウとは別種として扱った。

チスジノリはかつて本庄市備前堀川で生育していたとされるが、1977年頃から確実な記録が無い（右田1996）。しかし、2023年に吉見町の農業用水路においてチスジノリ属の1種の生育が確認された。胞子を確認できなかったため種の特定には至らなかったが、近県で生育するフトチスジノリである可能性も考えられる（熊野2014）。また、同じくチスジノリ科のオキチモズクを富士見市内の河川中流域にて、県内で初めて確認した（原口2023）。

カワモズク類については、2011年の改訂時までに確認された種は、アオカワモズク、イシカワモズク、カワモズク、チャイロカワモズク、ミョウテンジカワモズクの5種であったが、ニホンカワモズク、ホソカワモズク、タニガワカワモズクの3種の生育が新たに確認さ

れ（原口 2023）、合計 8 種となった。カワモズク類は、湧水起源の河川や水路など、水温や流量の安定した環境に生育するため、県内では湧水起源の水域が多くみられる荒川西台地や丘陵南部を中心に分布している（原口 2013）。前回のレッドデータブックでは、アオカワモズクとチャイロカワモズクはいずれも絶滅危惧Ⅰ類とされたが、その後生育地が多数確認され、比較的広域に分布し、安定的に生育することが確認できた。さらに、これまでカワモズク類が確認されていなかった利根川河川敷においてもこの 2 種を確認したが、その後の伏流水枯渇に伴い消失した。以上を踏まえ、今回の改訂ではアオカワモズクとチャイロカワモズクを準絶滅危惧（NT）とすることとした。

車軸藻類の生育環境は、主に池沼と水田を含む浅い湿地に大別され、種ごとに生育環境が異なる。旧版「埼玉県植物誌」では、県内各地から合計 21 種の車軸藻類が確認され、その大部分が池沼からの記録であった（小林ほか 1962）。しかし、その後は多くの種で確実な生育記録が報告されておらず、前回のレッドデータブック改訂時にはシャジクモ以外の種の生育を確認することができなかった。今回の調査では、小規模な池沼でカタシャジクモとハデフラスコモが確認されたものの、多くの種が依然として確認されていない。これまで車軸藻類が生育していた池沼は丘陵地帯から低地帯の溜池が多く、現在では池底に落葉や泥が堆積し、車軸藻類を全く確認できない場所がほとんどである。平野部の溜池では、一般的に年月の経過とともに泥の堆積や富栄養化が進行する。定期的に池干し等の管理を行うことで、池底に堆積した泥の除去や富栄養化を防止する効果があるが、管理があまりなされていないと見受けられる溜池も多く、車軸藻類の生育がますます困難になることが懸念される。

水田も溜池などの池沼と並ぶ車軸藻類にとっての重要な生育環境である。今回の調査では、広い範囲での水田でシャジクモの分布を確認することができた。チャボフラスコモとニッポンフラスコモについては、旧版「埼玉県植物誌」（小林 1962）以来、県内での記録がなかったが、約 60 年ぶりに生育を確認した。ミルフラスコモについてはこれまで県内での生育記録はなかったが、今回の調査で県内の平野部の水田に比較的広く分布することが明らかになりつつある。水田では、水深が 10cm 前後と極めて浅く、水温や水質の変動が非常に激しいため、夏季の水温は 35℃ 以上となることも珍しくない。シャジクモ、チャボフラスコモ、ミルフラスコモについては典型的な平野部の水田でも生育が確認されており、このような変動の激しい環境に適応していることが伺える。一方、ニッポンフラスコモは沢水の流入のある谷津田や湧水の流入のある農業用水路で確認されたことから、より低水温の環境が生育に重要であると思われる。なお、前回のレッドデータブックに掲載していたスエヒロフラスコモについては、現在はナガフラスコモのシノニムとして扱うのが主流であり、環境省レッドリスト（2020）にも掲載されていないことから、今回の改訂では評価対象から除外することとした。

【参考文献】

- Carlile, A.L. and Sherwood, A. 2013. Phylogenetic affinities and distribution of the Hawaiian freshwater red algae (Rhodophyta). *Phycologia* 52: 309-319.
- 原口和夫. (2013). 埼玉県のカワモズク属（淡水紅藻）の分布. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 7, 85-90.
- 原口和夫. (2023). 埼玉県におけるカワモズク属 2 種及びオキチモズクの初記録. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 17, 77-80.
- 伊藤 洋（編）（1998）：1998 年版埼玉県植物誌. 埼玉県教育委員会, 833pp.
- 環境省（2020）：レッドリスト. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>
- 小林 弘・山岸高旺・萩島陸巳（1962）：藻類. 埼玉県植物誌 埼玉県教育委員会, 285-338.
- 熊野 茂（2014）：フトチスジノリ. 環境省（編）レッドデータブック 2014 9 植物Ⅱ. pp.296.
- 右田清治（1996）：チスジノリ. 日本の希少な水生生物に関する基礎資料（Ⅲ）. 357-360.
- 中村 武（1996）：絶滅の恐れのある植物群の生育状況と保全について—淡水紅藻オオイシソウ類とチスジノリの現状報告と貴重な地域の自然を題材とした環境教育—. 南教育センター研

究紀要, 9, 20-23.

Necchi, O., Jr., Fo, A.S.G., Salomaki, E.D., West, J.A., Aboal, M. and Vis, M.L. 2013. Global sampling reveals low genetic diversity within *Compsopogon* (Compsopogonales, Rhodophyta). European Journal of Phycology 48: 152-162.

埼玉県 (2011) : 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 433pp.

3001

オオイシソウ科

〔和名〕

オオイシソウ

〔学名〕

Compsopogon coeruleus (Balbis) Montagne

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 EX

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】

前回の調査報告による鶴ヶ島市内の2地点での記録の後、2地点からの生育報告を得た。いずれも小河川の水草の茎や礫面に着生する大きさ10cm程度のもので確認は困難。

【県内生育状況】

流水中の小礫面や棒杭、水草の茎などに付着して成長している。大きさ10cm程度。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		○

鶴ヶ島市内2地点、富士見市小河川、利根川河川敷。

3002

オオイシソウ科

〔和名〕

アツカワオオイシソウ

〔学名〕

Compsopogon corticrassus Chihara & Tak.Nakam.

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 EX

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CE

【評価所見】

1995年時点では、行田市の見沼代用水で多数生育していることが確認されている（中村1996）が、2011年以降の調査で確認の報告はない。近年自然環境の保全が進んでおり回復の希望が持てる。

【県内生育状況】

小河川や用水路の水底の石や硬い土、コンクリート壁、水草などに着生する。

【特記事項】

塩基配列の研究からオオイシソウのシノニムとする案がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
			○					

基準産地の行田市の見沼代用水では確認されず、他の地域からの報告もない。

3003

オオイシソウ科

〔和名〕

オオイシソウモドキ

〔学名〕

Compsopogonopsis japonica Chihara

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 EX

2011 CE
1998 EX

全国カテゴリ

2020 CE

【評価所見】

行田市埼玉古墳内の農業用水路から千原・中村(1975)により報告されたが、以後確実な記録がない。近年自然環境の保全が進んでおり回復の希望が持てる。

【県内生育状況】

池沼、河川、用水路などで水底の小石や水草などに着生する。

【特記事項】

塩基配列の研究からオオイシソウのシノニムとする案がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3004

チスジノリ科

〔和名〕

チスジノリ

〔学名〕

Thorea okadae Yamada

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 EX

2011 CE
1998 EX

全国カテゴリ

2020 VU

【評価所見】

本庄市の備前堀川で初めて記録された（中村・千原1977）。1975～1976年には豊富に見られたが、1977年を境に消滅（中村1980）し、以後確実な記録がない。近年自然環境の保全が進んでおり回復の希望が持てる。

【県内生育状況】

河川、用水路など流水中の礫やコンクリート護岸、橋げたなどに着生する。

【特記事項】

富士見市内の河川に、同じくチスジノリ科のオキチモズクの報告がある（原口2023）。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3005

チスジノリ科

〔和名〕

オキチモズク

〔学名〕

Nemalionopsis tortuosa Yoneda & Yagi

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 なし

2011 なし
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CE

【評価所見】

これまで九州地区の特産種とされてきたが、東京都立川市から関東で初めての報告があった（林・田中2015）。埼玉県内においても新産地が報告されたが（原口2023）、生育地が限られており、河川改修による生育環境の変更が消滅要因として懸念される。

【県内生育状況】

一般的な冬型の紅藻類と違って夏季に旺盛な生育が見られ、糸状体の長さが50cmに及ぶものがある。ただし、生育は橋梁下の直射光の当たらない川床の礫にのみ着生してる。冬季には直射光の当たる場所にも生育域が広がる。

【特記事項】

埼玉県新産である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

富士見市江川の中流域に生育。

3006 カワモズク科

(和名) カワモズク

(学名) *Batrachospermum gelatinosum* (L.) DC. var. *gelatinosum*

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】 前回19件の報告があり、今回6地点の報告があった。二次メッシュ分布では4区画から報告されている。確認地ではいずれも50個体以下の小規模なものである。湧水池の消滅や、湧水量の減少がみられ消失の危険は大きくなっている。加えて河川敷開発や農薬汚染などによる消失の危険がある。

【県内生育状況】 湧水池や池から流出する小河川、用水堀の水底の小石や棒杭に着生している。湧水口から5m以内の清

冽な流路にのみ生育が見られ、極度な清水種とみられる。
【特記事項】 湧水池の消滅により生育域が減少傾向にある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○		

荒川西台地から丘陵南部一帯に分布する。

3007 カワモズク科

(和名) ミョウテンジカワモズク

(学名) *Batrachospermum gelatinosum* (L.) DC. f. *spermato involucrum* Vis & Sheath

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 なし2011 CE
1998 なし

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】 須貝・熊野（2010）によって日本新産品種として和光市から報告された。今回の調査では原記載地と同じ二次メッシュ区画内の他の湧水池からも確認されたが（原口2013）、個体数は減少している。本種は産地極限種であり継続調査の必要がある。原記載地の湧水井戸では蓋をしてしまうと照度不足になり衰弱・消失の危険がある。

【県内生育状況】 湧水井戸のコンクリート枠、湧水池の鉄枠等に着生する。

【特記事項】 一地域のみに分布する限定種である。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

和光市の限られた水域に分布する。

3008 カワモズク科

(和名) ニホンカワモズク

(学名) *Batrachospermum japonicum* M. Mori

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】 森（1970）によって栃木県の足利から記載された種で全国的に報告の少ない種である。カワモズクに近い形態から見落とされている傾向にある。本県では、和光市の2地点の小水域のみから報告がある。

【県内生育状況】 流水の礫面に着生し大きさ5cmほどに生育している。大きな受精毛が特徴で、果胞子の形成もすすんでいる。

【特記事項】 塩基配列の研究からカワモズクのシノニムとする案がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

和光市白子、和光市新倉

3009 カワモズク科

(和名) ホソカワモズク

(学名) *Batrachospermum turfosum* Bory

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】 本県新産種（原口2023）。山地清水性の種で平野部での生育は少ない。カワモズク類の中では比較的粘性の少ない種で分類は容易である。県内での分布情報は不足しており、より広範囲での調査が望まれる。生育地の池では大型のコイが生息しており、食害が危惧される。

【県内生育状況】 湧水池の中ほどの巨礫の側面に着生している。受精毛はよく発達しているが果胞子の形成が見られない。照度に過敏な種とみられる。50個体に満たない。

【特記事項】 埼玉県新産種。同一水域にカワモズク、イシカワモズクがみられる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

富士見市の湧水池に生育している。

3010 カワモズク科

(和名) タニガワカワモズク

(学名) *Batrachospermum turgidum* Kumano

埼玉カテゴリー

2024 VU
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 VU

【評価所見】 熊野（1982）によって報告されたものである。本県においては、2地点のみで生育が確認されている（原口2013、2023）。河川改修等に伴う湧水の減少、枯渇や農薬汚染による影響が懸念される。

【県内生育状況】 湧水を伴う河川にみられ、チャイロカワモズクの見られる水域に近いやや汚濁のすすんだ地点で確認されている。長い円筒形の受精毛が折れ曲がっているのが特徴である。

【特記事項】 他県においても生育数は少ないようである。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

新座市及び富士見市の2地点から報告。

3011

カワモズク科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 なし

2011 CE
1998 なし

全国カテゴリ

2020 NT

〔和名〕

チャイロカワモズク

〔学名〕

Sheathia arcuata (Kylin) Salomaki & M.L.Vis

【評価所見】

今回の調査では27件の報告があり、二次メッシュで4区画から記録されている。確認地の多くでは、個体数は500以下であった。分布域が広がっているのは調査強化の結果でもあろうが、藻体の適応力が大きいとも見られる。消失の危険は小さいと考えられるが、河川敷改修や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内生育状況】

湧水池や小河川、用水路の水底の小石や水草の茎、ときには三面護岸の水底にも着生する。

【特記事項】

アオカワモズクと同一水域に分布する傾向が強い。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
				○	○	○		

都幾川以南及び荒川西台地の南部域に分布するとされていたが滑川町の用水路に分布域が広がった（三瓶2020）。

3012

カワモズク科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 なし

2011 CE
1998 なし

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

イシカワモズク（ヒメカワモズク）

〔学名〕

Torularia atra (Hudson) M.J.Wynne

【評価所見】

今回の調査で5地点から報告されている。確認個体数は1,000を超える。確認地の1つは洪水対策の調節池で岸辺のヨシの茎に多量に着生しているが、池の改修工事のために湧水の枯渇が懸念される。河川改修や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内生育状況】

湧水池や調節池の護岸木柱や水中の枯れ枝などに着生している。湧水口周辺にのみ生育が見られる。

【特記事項】

先の報告でイシカワモズクが多産した湧水池の

1つが2019年台風第19号による洪水で土砂に埋没し完全に消滅した。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○		

荒川西台地から丘陵南部に分布する。

3013

カワモズク科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 CR

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 NT

〔和名〕

アオカワモズク

〔学名〕

Virescentia helminthosa (Bory) Necchi, D.C.Agostinho & M.L.Vis

【評価所見】

今回の調査では15地点、二次メッシュ分布では3区画で記録されている。個体数はいずれの場所でも500を超えない。チャイロカワモズクとともに分布域が広がっていて確認数が増加している。消滅の危険度は小さくなっていると考えられる。しかし、河川敷開発や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内生育状況】

用水路の無護岸、二面護岸はもとより三面護岸の水底にも着生する。

【特記事項】

チャイロカワモズクの分布に一致し、両者は同様の環境を嗜好している模様。調査が強化されていることもあろうが分布域が広がっている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○		○

都幾川以南の丘陵地南部域に分布する。

3014

カワノリ科

埼玉カテゴリ

2024 NT
2005 NT

2011 NT
1998 NT

全国カテゴリ

2020 VU

〔和名〕

カワノリ

〔学名〕

Prasiola japonica Yatabe

【評価所見】

2019年台風第19号により県下の全ての生育地から消失し、翌年も回復が見られなかったが、2021年には10地点において生育が確認された（原口2021、三瓶2021）。消失後の回復力の速さから、当面消失の危険性は小さいと考えられる。日照量が本種の生育要因として重要であり、河畔の樹冠の発達による日照不足が衰退要因となる可能性がある。

【県内生育状況】

流速の大きい溪流中のチャートや飛沫のかかる壁面に着生する。

【特記事項】

商用採取が行われており衰退要因となる恐れがある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○					

荒川水系上流の秩父系の地層で、海拔高度300～800m、夏季の水温19度以下の区域に限り分布する（原口1995、石川2013）。

3015

シャジクモ科

埼玉カテゴリ

2024 VU
2005 CR

2011 VU
1998 CR

全国カテゴリ

2020 VU

〔和名〕

シャジクモ

〔学名〕

Chara braunii C.C.Gmel.

【評価所見】

今回の調査期間中に、水田を中心に54地点から報告された。県内の水田地帯に広範囲に分布するが、小規模な水田などでは土地利用の変更や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内生育状況】

県内の水田や休耕田で比較的広範囲に生育する。本種は湖沼や溜池でも生育するが、県内でのそのような生育環境は極めて少ない。

【特記事項】

近年の種内分子系統解析の結果、湖沼などの深い環境に生育するものと水田などの浅い環境のものとの間に

は遺伝的な隔たりが存在することが確認されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
		○	○	○	○	○	○	○

県中部の丘陵地から荒川西台地、加須中川低地帯を中心に分布するほか、長瀬の岩畳四十八沼や秩父市内の水田跡地にも分布する。

3016 シャジクモ科

(和名) イトシャジクモ

(学名) *Chara fibrosa* C. Agardh ex Bruzelius subsp. *gymnopitys* (A. Braun) Zaneveld

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市の千丈池（現仙女ヶ池）・谷津池、入間市の東金子に記録があるが、それ以降は確実な記録がない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。主に溜池の水際などの浅い環境に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3017 シャジクモ科

(和名) カタシャジクモ

(学名) *Chara globularis* Thuillier

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】鶴ヶ島市内の池で、本種の断片が確認されたが、生育確認には至っていない。旧版埼玉県植物誌（1962）では、比企郡竹沢の大谷池に記録があるが、それ以降の生育は確認されていない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。主に湖沼や溜池に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

鶴ヶ島市

3018 シャジクモ科

(和名) ハダシシャジクモ

(学名) *Chara zeylanica* Klein ex Willdenow

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 なし2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市の千丈池（現仙女ヶ池）に記録があるが、それ以降は確実な記録がない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。湖沼や池などで深さ1～2m以浅に生育するほか、汽水域にも生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3019 シャジクモ科

(和名) チャボフラスコモ

(学名) *Nitella acuminata* A. Braun ex Wallman var. *capitulifera* (Allen) Imahori

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】今回の調査で、熊谷市内の水田にて新たに生育を確認した。生育地の水田では、圃場整備や土地利用の変更、農薬による影響が懸念される。旧版埼玉県植物誌（1962）では、柴山沼（白岡町 現白岡市）、大宮公園（大宮市 現さいたま市大宮区）でも記録があるが、これらの水域では今まで生育を確認できていない。

【県内生育状況】水田や溜池に生育することが知られる。今回生育を確認した水田では、中干しが徹底されず、夏季に湛

水状態が続いたことが本種の生育を可能にした一因と考えられる。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
						○		

熊谷市内の水田

3020 シャジクモ科

(和名) ミルフラスコモ

(学名) *Nitella axilliformis* Imahori

埼玉カテゴリー

2024 DD
2005 なし2011 なし
1998 なし

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】今回の調査で初確認となった。計7地点の水田で生育が確認されたが、県内での分布状況についてはまだ不明な点が多い。

【県内生育状況】主に低地、丘陵地の水田で生育し、しばしばシャジクモと同所的に見つかるが、シャジクモに比べ個体数は少ない傾向にある。

【特記事項】最近の調査によって、県外においても新産地が発見されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○	○		○

加須市、羽生市、行田市、東松山市、さいたま市、飯能市の水田に分布する。

3021

シャジクモ科

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

(和名)

ハナビフラスコモ

(学名)

Nitella erecta Imahori

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市の千丈池（現仙女ヶ池）に記録があるが、それ以降は確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。池、水田、小川に生育することが知られる。

【特記事項】

1950年代までに全国10ヶ所以上で生育が確認されていたが、それ以降の記録は全くない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

不明

3022

シャジクモ科

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

(和名)

ヒメフラスコモ

(学名)

Nitella flexiliss (L.) C.Agardh

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、戸田市および比企郡都幾川村（現ときがわ町）明覚に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に池沼や溜池に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

不明

3023

シャジクモ科

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

(和名)

フタマタフラスコモ

(学名)

Nitella furcata (Roxburgh ex Bruzelius) C. Agardh

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、幸手市高須賀沼に記録があるが、それ以降は確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に溜池、湖沼、水田に生育する。

【特記事項】

ニッポンフラスコモに酷似するが、走査型電子顕微鏡で観察すると、卵胞子の模様が比較的浅い凹凸が不完全な網目を形成する点で区別できる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

不明

3024

シャジクモ科

埼玉カテゴリー

2024 EX
2005 EX

2011 EX
1998 CR

(和名)

テガヌマフラスコモ

(学名)

Nitella furcata (Roxburgh ex Bruzelius) C. Agardh var. fallosa (Morioka) Imahori

全国カテゴリー

2020 EW

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、上尾市原市沼、川越市伊佐沼、岩槻市（現さいたま市岩槻区）の慈恩寺沼に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に溜池、湖沼に生育する。

【特記事項】

本種は環境省カテゴリー EXにランクされていたが、手賀沼湖底泥から発芽・飼育されたため、EWにランク変更された。室内培養により域外保全が行われている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

不明

3025

シャジクモ科

埼玉カテゴリー

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CR

(和名)

キヌイトフラスコモ

(学名)

Nitella gracilis (Smith) C. Agardh

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、大里郡江南町（現熊谷市）の弁慶沼、比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に溜池に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西台地	大宮台地	加須・中川低地

不明

3026

シャジクモ科

〔和名〕ヒナフラスコモ

〔学名〕*Nitella gracillima* Allen

埼玉県カテゴリー

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市高萩に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。主に溜池に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3027

シャジクモ科

〔和名〕フラスコモダマシ

〔学名〕*Nitella imahorii* R. D. Wood

埼玉県カテゴリー

2024 CE
2005 なし

2011 CE
1998 なし

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】旧版埼玉県植物誌（1962）では、大宮市（現さいたま市大宮区）の大宮公園および今羽に記録があるが、以後確実な記録がない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。主に溜池、水田、水路、湧水池に生育する。

【特記事項】多くの車軸藻類が初夏から秋にかけて繁茂するが、本種は秋から冬にかけて繁茂する場合がある。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3028

シャジクモ科

〔和名〕サカゴフラスコモ

〔学名〕*Nitella inversa* Imahori

埼玉県カテゴリー

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】旧版埼玉県植物誌（1962）では、大宮市（現さいたま市大宮区）大宮公園に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。主に溜池に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3029

シャジクモ科

〔和名〕ニッポンフラスコモ

〔学名〕*Nitella japonica* Allen

埼玉県カテゴリー

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】今回の調査では日高市、飯能市の谷津田および水路で生育を確認した。県内の生育箇所は3箇所に限定され、水田の耕作放棄や農薬施用の影響が懸念される。旧版埼玉県植物誌（1962）では、大宮市（現さいたま市大宮区）大成、大里郡寄居町男衾・鉢形、大里郡江南町（現熊谷市）および行田市小針沼に記録があるが、池沼においては今日まで生育記録はない。

【県内生育状況】沢水の流入する谷津田や湧水の流れ込みのある水路で生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

日高市、飯能市に分布する。

3030

シャジクモ科

〔和名〕アメリカフラスコモ

〔学名〕*Nitella megacarpa* Allen

埼玉県カテゴリー

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリー

2020 CE

【評価所見】旧版埼玉県植物誌（1962）では、比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】県内での生育状況は不明。主に池沼や溝に生育する。

【特記事項】かつては日本の中部に比較的広く分布していたが、現在は秋田県のみで生育が確認されている。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3031

シャジクモ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CE

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

ケフラスコモ

〔学名〕

Nitella multiparatita Allen

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市の千丈池（現仙女ヶ池）・谷津池、比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に溜池に生育する。

【特記事項】

日本固有種で本州の溜池に生育するが、近年の調査では県外においても生育が確認されていない。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3032

シャジクモ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

ナガフラスコモ

〔学名〕

Nitella orientalis Allen

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、桶川市で記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に溜池、湖沼に生育する。

【特記事項】

スエヒロフラスコモは本種のシノニムとされる。

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3033

シャジクモ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

ミノフサフラスコモ

〔学名〕

Nitella pseudoflabellata A. Braun var. mucosa (Nordstedt) F. M. Bailey

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市の高萩・北中沢および比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。主に溜池、湖沼に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3034

シャジクモ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

ホンフサフラスコモ

〔学名〕

Nitella pseudoflabellata Braun

【評価所見】

旧版埼玉県植物誌（1962）では、大里郡江南町（現熊谷市）の大沼に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。

【県内生育状況】

県内での生育状況は不明。県外では池沼や溜池に生育する。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地

不明

3035

シャジクモ科

埼玉カテゴリ

2024 CE
2005 CR

2011 CE
1998 CR

全国カテゴリ

2020 CE

〔和名〕

ハデフラスコモ

〔学名〕

Nitella pulchella Allen

【評価所見】

今回の調査で越生町の溜池で生育が確認された。旧版埼玉県植物誌（1962）では、日高市高萩の谷津池でも記録があるが、その後確実な記録はない。溜池の管理放棄や遷移に伴う水質、植生変化による影響が懸念される。

【県内生育状況】

主に溜池に生育し、酸性の強い水質を好む。

【特記事項】

【県内分布状況】

亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川 西台地	大宮 台地	加須・ 中川低地
					○			

越生町